

『和讃のおはなし』

真宗大谷派 鍵役

宣心院 大谷 暢文

『諸経讃（九）』

衆生有碍のさとりにて

無碍の仏智をうたがえば

曾婆羅頻陀羅地獄にて

多劫衆苦にしずむなり

（私たち衆生が自力のさとりによって、阿弥陀さまのご本願を疑うのならば、無間地獄に落ちて、永遠に多くの苦しみの境界に沈んでしまうのであります。）

このご和讃が、九首の『諸経讃』を締めくくる最後のご和讃です。出典は『無量寿仏名号利益因縁経』という、私たちにはあまり馴染みのない経典です。近年までこのご和讃には、特定の出典がないのではないかと考えられていたことから、馴染みのなかったことが伺えますが、『諸経讃』とあるとおり、このご和讃にも出典があったのです。

『無量寿仏名号利益因縁経』の訳者は、『仏説無量寿経』を訳した康僧鎧です。この人物から浄土真宗の学問的な縁を感じますが、何より親鸞聖人の一切経を紐解いていかれるひたむきな情熱を感じる事ができます。

このご和讃は、九首の『諸経讃』最後の一首ですが、その内容は、自力の心で他力のご本願を疑うならば、大いなる過ちを犯すこととなり、そのことが永遠の苦しみに沈んでしまうことになるので、阿弥陀さまのご本願、そしてお釈迦さまのご本意を見失ってはならないと注意を促しています。

ここに「有碍のさとり」とあります。さとりなのですから、当然完成された境地と考えるでしょう。ただしここで注意が必要なのは「有碍」ということです。「有碍」とは、妨げが有ることを意味し、悪業煩惱をもつ衆生（私たち）のことを指します。妨げとは、悪業煩惱によって他力が見えなくなる、他力を見えなくなる、あるいは、悪業煩惱とは何かと思いつむ、つまり自力ということです。自力とは他力を疑う心です。他力とは、まさにこの私を救ってくださる阿弥陀さまのお慈悲です。それを疑えば、当然行き着く先は、ご和讃にあるように「曾婆羅頻陀羅地獄」です。親鸞聖人は、このお言葉の脇に「無間地獄の衆生をみては、あらたのしげやとみるなり。仏法を誇りたるもの、この地獄に落ちて八万劫中大苦悩をうく」と記しておられます。苦しみが間断なく続く、一番苦しい地獄が、自力によって他力を疑うことであらわれるのです。九首の『諸経讃』によって、さまざまな経典を引用してきましたが、それらすべてが、ゆめゆめ他力を疑ってはならないと戒めておられるのです。

発行 真宗大谷派（東本願寺）天満別院

大阪市北区東天満一ー八一二六

電話 六三五ー一三五三五

代表者 輪 番 長谷山法雄

大字城

四月の法座・行事

九日・同朋の会例会

大阪教区第七組

教應寺住職 建部 智宏師（午後三時）

十二日・一如上人御祥月御命日

・ 闡如上人御祥月御逮夜

常永代経（午後二時）

十三日・闡如上人御祥月御命日（午前八時）

十四日・琢如上人御祥月御命日

二十四日・綽如上人御祥月御命日

・ 正信偈書写の会（午前十時）

・ 定例法話

大阪教区第十三組

心願寺

松井 恵 師（午後一時半）

二十七日・宗祖聖人御逮夜（午後二時）

二十八日・宗祖聖人御命日（午前八時）

去る三月十五日 天満別院元責任役員 寺林 惇師（大阪市城東区來迎寺）が亡くなりました。寺林 惇師は二〇〇四年から二〇一六年まで当院の責任役員として就任し、蓮如上人の御遠忌、本堂再建、親鸞聖人の御遠忌に御尽力頂きました。

仏の御名を

きくひとは

ながく不退に

かなうなり

（法語カレンダーより）

霊園・墓石



磐田石材店

本社 〒536-0001

本店 大阪市城東区古市1丁目23番20号

〒530-0042

大阪市北区天満橋1丁目2番18

TEL 06-6930-5075

0120-30-5075

FAX 06-6930-5078

◆春季彼岸会並
総永代経法要勤修

去る三月二十四日、天満別院に於いて春季彼岸会並総永代経法要を勤修いたしました。当日は天候に恵まれ多数のご参拝をいただきました。
法要後には岡崎別院輪番福田 大
師のご法話があり、皆さん熱心に聴聞さ
れておられました。

◆天満別院院議会開催報告

去る三月十九日、天満別院に於いて責
任役員会、院議会が開催されました。左
記の通り議案の審議が行われましたので
ご報告いたします。

記

- 第1号 二〇一七年度経常部歳入歳出
予算（案）について
第2号 二〇一七年度事業部歳入歳出
予算（案）について
以上いずれも
全会一致で承認されました。

◆大和大谷別院 宗祖親鸞聖人
七百五十回御遠忌法要

大和大谷別院では、来る二〇一七年四
月十五日から十六日の一昼夜にわたり、
宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が左
記の通り厳修されます。

記

日時

- 四月十五日（土）
第一法要 十時より
第二法要 十四時より
御伝鈔 十六時より
第三法要 十八時より
四月十六日（日）
結願晨朝 七時より
帰敬式 九時より
庭儀（稚児行列）十一時より
結願日中 十二時より

行き方

- 近鉄大阪線「築山駅」下車
徒歩十五分
別所交差点から車で三分

※法要期間中、別院境内への自家用車ま
たは、バス等の乗り入れ及び駐車はでき
ません。

◆同朋大会開催のお知らせ

左記の通り第四十三回大阪教区同
朋大会が開催されます。ご参加希望
の方は四月二十五日迄に別院寺務所
までご連絡ください。

記

日時 五月二十日（土）
午前十時～午後十二時三十分

会場 難波別院 本堂

テーマ

現代の危機を親鸞聖人に問う
「満たされて 生きるには」

講師

真宗大谷派僧侶
フリーアナウンサー
川村 妙慶 氏

参加費 お一人千円

◆同朋の会のお知らせ

この度、天満別院では四月一日より教
化委員会が発足致します。そこで天満別
院教化委員会 研修部主催による同朋の
会を左記の通り開催致します。

記

日時 四月九日（日）
午後三時より

場所 天満別院 二階 仏間

講師 大阪教区第七組

教應寺住職

建部 智宏 師

聴講 無料

今年度より各会ともに**午後三時**
からと開催時間の変更されております。
皆様お誘い合わせの上、ご参拝下さい。

輪番雑感

「サザエの自慢」という話。
海の中の岩のふちにサザエ
がいた。サザエはあつい丈
夫な殻の中で生きている。

或る時、漁師が海の魚を捕獲するた
め網を「ザア」と海の中に投げ込
んだ。サザエは独言に「多分外の魚
はみんな一網打尽に網にかかって捕
えられただろうに、自分はかたい殻
に守られて安全だ」と思っていた。
ところが、あにはからんや、ふと気
がつくと、魚屋の店先に一山いくら
と値段がつけられているではありま
せんか。それがサザエ、自分であつ
たという話です。油断大敵である。
先日、同級生の訃報が届きサザエの

話を思い出した。「死亡欄 他人は死
んでも われ死なず」いつもわが身
のことを他人事にしている。「鳥辺野
は昨日も今日もたつ煙 眺めて通る
人はいつまで」という言い伝えが残
されている。（鳥辺野は京都東山に昔
あつた火葬場）死を他人事として、わ
が身となかなか受け取らないのであ
る。ギリシャに「メメント・モリ」
という言葉がある。死を忘れるなど
いうことである。人間は必ず死ぬ。
だから今生きている時間を大切に生
きなさいということである。現代は
死から目をそむけ、生も死も軽んじ
られている。それは私そのものの有
り様でもある。同級生の訃報を通し
て問われています。